

部局名

農学部 フィールド科学教育研究センター(木花)

担当:西脇 亜也



テーマ

目に見えていない侵略者・外来牧草の謎を追って



国の天然記念物である都井岬・小松ヶ丘は、日本在来のシバを主とする草地でしたが、この10 数年でこのシバのほとんどが外来牧草に置き換わりました。これは、映画「散歩する侵略者」にも似た「目に見えていない」侵略です。競争実験の結果、意外にも外来牧草は競争に弱いことがわかりました。そこで私は、馬の影響を制御することによって、競争に弱い外来牧草が放牧地を侵略できる条件を明らかにする野外実験を行っています。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-green/post-57.html>



都井岬・小松ヶ丘における馬の群れと、馬の採食を防ぐ金網カゴを用いた野外実験

移動式のカゴ（銀色）で馬に食べられた草の量や再生した草の量の変動を調べ、固定式のカゴ（茶色）で競争実験を行っている。



移動式のカゴ（銀色）で1ヶ月間、馬の採食から保護された草をよく見ると、ほぼ全てが外来牧草になっている。2000年当時はこの場所も日本在来の草であった。



外来牧草に変わった場所を、固定式のカゴ（茶色）で数年間、馬の放牧から保護したら、日本在来の草の場所に戻った。この結果は、外来牧草は競争に弱いことを示す。